

詰草の箱より

行方不明者

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

万能手3人と狙撃手兼毘士とオペレーターによるチームの御嘯です。

目  
次

## ブローグ

「葵姉さん、調子はどうつつすか？」

オペレーターの服を身に纏った、赤縁眼鏡をした青年が少し離れた女性に声をかける。

「万全だよ。蓮は大丈夫？」

葵姉さんと呼ばれた女性の名前を水町葵と言い、赤色のコートを肩にかけて長身の女性。髪は後で括り赤の髪留めをつけており、屈伸を行いつつ返事をして隣で柔軟を行なっている青年に声をかけた。

「問題なし。琳はどうだ？」

蓮と呼ばれた青年は柔軟をやめて、返事をする。青年の名前を北御門蓮と言い、葵と同じく赤色のコートを肩にかけ水町より少し身長が高い好青年。髪型はオールバックにしており、赤い花の形をしたピアスを嵌めている。

「絶好調。雫は？緊張してない？」

琳と呼ばれたのは蓮とは一卵性双生児であり弟である、北御門琳。双子なだけあって身長体型はほぼ同じで、髪型を揃えれば見分ける事は困難だろう。他二人と同じように赤いコートを肩にかけ、赤いヘアピンで髪をセットしている。

「ちよつと緊張してるかもですけど、大丈夫です！茜さんは？」

雫と呼ばれた少女は、見た目が実年齢より幼く見える事を気にしており一日に最低でも三杯は牛乳を飲む様になっている。その成果が身長に影響する事はないだろう。髪はショートに切り揃えられており、左目付近に泣き黒子。首には赤いチョーカーが巻かれており、他三人とは違い赤いコートをしっかりと着用してボタンを閉じている。

「完璧つすよ！それにこのランク帯なら、俺の出番も無さそうつつすからね！」

最後に一周まわって帰ってきたのは嘉藤茜。髪を短く切りワックスで固めた事が制してか、外見からは年相応の幼さが減り赤縁眼鏡により賢そうに見えるが口を開けば残念さが伺える。

「それでサボってたら私刑（リンチ）に処すけどな」

蓮から釘を刺されて戯けた様に冗談つすよお、と震え声で返すことで残念さが際立つ茜を横目に各々集中力を高めていく。茜が言う通りB級ランク戦、それも下位グループならソロでも勝てる。今回の目標は完全試合であるからに、誰も落とされずポイントを総取りする必要がある為油断は出来ない。

「さーて…… 開始10秒前つす。新生水町隊、再始動つすよ！」

「茜の言う通り、焦らず堅実に…… ド派手に決めていこっか！」

茜に続けるように葵姉さんの掛け声と同時にマップへと転送された。

——————キリトリ——————

初戦の結果は茜が言っていた様に圧勝。

水町隊はこの結果で、中位グループにまで登ることになる。